

6月20日の世界難民の日を覚えて

テュアン シャンカイ

世界にはおよそ5000万人以上の難民が居るといわれています。難民と言われるとなかなかピンと来ない方もいらっしゃるかもしれません、簡単に説明しますと「祖国で迫害を受ける恐れがあるために他国に逃げざるを得ない人」を難民と呼んでいます。日本においてもおよそ1万人以上の難民が居るといわれています。1980年代から現在に至るまで毎年1000人規模で日本に難民がやってきています。しかしながら、日本の場合、先進国と比較して難民として認められるまでに3年から5年、長い場合は7年以上もかかります。このように日本における難民の受け入れ体制はあまり整っていないのが現状です。

このような現状があるなかで、国連をはじめとして日本にありますNPOやNGOが日頃から難民の保護や支援に力を入れています。関西学院大学においても2006年に全国で初となる難民を対象とした推薦入学制度を導入し、私もその6期生として総合政策学部へ入学しました。また最近では学生を中心となって様々な切り口で難民の認知啓発や支援活動を行っています。いらなくなつた衣服を難民キャンプへ届けるプロジェクトや、難民に関連した映画を上映するプロジェクトなど幅広い分野で学生発の難民支援を今日に至るまで行っています。

私も大学1年生の頃に日本で暮らす難民の方々の祖国の味を大学の学食で提供する「Meal for Refugees」を立ち上げました。難民を知って支えるをモットーにこれまでに北海道から関西までおよそ15大学が加わっており、関西学院大学でも毎年5月と6月に上ヶ原キャンパスと三田キャンパスで導入されています。

このように現在では様々な切り口で難民の認知啓発や直接支援がなされてきましたが依然として難民の方への公的な保障は十分とは言えません。しかし、そんなときに日本に住む私たち一人ひとりが難民の生活や心を支える助っ人になることがあります。難民の状況を理解して自分の意識を変えることも大きな一歩です。難民が抱えている問題が自分や日本と関係ないと思うのではなく、国際社会、日本社会、そして難民の方々を学生として受け入れている関西学院大学の一員としてどうしたらいいか考えていただけたら幸いです。

(総合政策学部4年)